

編集後記

朝夕の冷えも和らぎ、陽ざしも春めいてまいりました。本号をお送りするころは花の便りで賑わっていることでしょう。

脳性麻痺の療育とは、高木憲次先生のうち建てられたフィロソフィーですが、精神発達障害にも目が向けられるに及んで心身障害児という言葉が用いられ、従来脳性麻痺といわれていたものが、早期診断、早期治療の普及・発達につれて、脳性麻痺と診断される以前の状態で、運動および精神発達遅滞児として捉えられるようになり、早期訓練によってかなりよい成績が期待されるようになりました。

今回はこの時点における診断と治療に焦点をあて、「脳障害児の早期療育」と題する特集を企画し、この方面において先駆的業績を持つ方々に執筆して頂きました。

すなわち、児玉氏は脳障害児の早期診断の要諦について、穂山氏は、早期療育のシステム造りについて、佐竹氏は、早期療育に伴なうリスクについて、梶浦氏は、Bobath法を中心に早期療育の成績について、それぞれ珠玉の総説をお寄せ下さいました。以上4編の論文により、発達障害児に対する考え方の現況と、Bobath法、Vojta法を主軸とする早期療育の現今の趨勢およびその成績を一読に

して知ることができ、読者に裨益するところ大なるものがあると思います。

なお、Vojta法による早期療育の成績についてもご執筆いただく予定でありましたが、著者の都合により掲載できなかったことはまことに残念でした。しかしVojta法については上述の論文の中に触れられており、意は尽されていると思います。

「講座」としては、森氏が一過性脳虚血発作(TIA)の診断と治療について、芳賀氏が、慢性閉塞性肺疾患(COPD)のリハビリテーション手技とその効果について、詳細に記述した力作を掲載されました。また有川氏の「膝関節運動検出装置の試作」も独創的な論文であり、実用面での応用が期待されます。

巻頭言で原田氏が、リハビリテーションサービスの多元化、知識の専門化の中で、逆に総合化に向かっての努力の必要性が高まっていることを述べられていることにはまことに同感であり、時宜をえた御指摘であると思います。

リハビリテーション医学会も間近となりました。皆様とお会いできることを楽しみにしております。

(土屋弘吉)

次号予告(第8巻第5号)

特集	地域リハビリテーション	
	小規模通園施設の現状と課題……………東京女子医大・リハ科	山形恵子
	訪問教育におけるリハビリテーションと	
	その問題……………横浜市大・リハ科	佐鹿博信・他
	身体障害者更生相談所の実体と	
	地域リハにおける課題……………宮城県・拓杏園	今田拓
	地域リハビリテーションにおける	
	保健婦の役割……………兵庫県・津名町役場	池脇政子
	老人家庭奉仕員の現状……………横浜市大・リハ科	大川嗣雄・他
講座	脳卒中(5)(脳梗塞における	
	病巣部位の臨床診断Ⅰ)……………東海大・神経内科	篠原幸人
	リハビリテーション医のための呼吸器入門(5)	
	(呼吸不全のリハビリテーション)……………国療東京病院	芳賀敏彦
一頁講座	リハビリテーションと法律(5)措置……………厚生省・社会局	昂精一
研究と報告	脊髓麻痺患者における障害受容の経過中にみた	
	精神身体症状について……………国療・整形外科	蕪木初枝・他
紹介	多機能ベットの試作……………兵庫・リハビリセンター	奥英久・他
学会報告	第26回関東地方リハビリテーション医学懇話会	
	……………都補装具研	加倉井周一
	第13回九州リハビリテーション医学懇話会……………	松尾隆
印象記	1979年米国リハビリテーション	
	医学会に参加して……………代々木病院	二木立
ひと	佐々木智也氏……………埼玉医大	大島良雄

編集顧問

天児民和
大島良雄
小池文英
杉山尚
砂原茂一
津山直一
水野祥太郎

編集委員

明石謙
上田敏
大井淑雄
大川嗣雄
千野直一
土屋弘吉
横山巖

編集同人

赤津隆
今田拓
今村哲夫
江口壽榮夫
荻島秀男
小野啓郎
加倉井周一
河邨文一郎
五味重春
斉藤正也
沢村誠志
武智秀夫
永井昌夫
中村隆一
野島元雄
間得之
長谷川恒雄
橋倉一裕
福井罔彦
三島博信
渡辺英夫
飯田卯之吉
田中照子
小川孟
野村飲
小島蓉子
笹沼澄子
鈴木明子
高田玲子
林玉子
土屋和夫
松村秩

(細田, 山田)